特医協第15-040号

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2015年4月20日

正会員A、B、協力会員 主任司書　殿

正会員個人　殿

特定非営利活動法人日本医学図書館協会

会長　福井　次矢

　　　（公印省略）

2015～2017年度JMLA受託事業「医療における情報のバリュー・スタディ」

ワーキンググループメンバの公募について（ご案内）

本会では新たな受託事業として「医療における情報のバリュー・スタディ」の研究活動に取り組むことになりました。この調査は、2014年度の第85回総会において米国医学図書館協会との提携締結を記念した特別講演で元会長のJoanne Gard Marshall先生のご講演でも紹介いただいた、医療への情報の価値を明らかにするために米国で2010-11年に実施されたバリュー・スタディを踏襲するものです。

つきましては、提案者の酒井由紀子理事を主任研究者として研究活動にあたるワーキンググループを組織するためメンバを公募いたします。医学図書館が提供する情報サービスの価値を主張するエビデンスを得られる意義深い調査となります。募集要項と研究計画書を参照の上ご応募ください。

なお、同調査の対象となる医療機関の募集は別途行います。その際には同機関に所属の会員に研究協力者としてお力をお貸しいただきたく存じます。募集の際はよろしくお願い申し上げます。

以上

別紙１．

2015年4月

特定非営利活動法人日本医学図書館協会

2015～2017年度JMLA受託研究「医療における情報のバリュー・スタディ」

ワーキンググループメンバ　募集要項

1. 活動内容

別紙2の計画のとおり、JMAL受託事業として「医療における情報のバリュー・スタディ」を主任研究者およびワーキンググループメンバとともに推進し、調査結果の分析、報告や発表を行う。

1. 募集人員

2名

1. 任期

2015年6月1日～2018年3月31日

1. 応募資格および要件

本会の正会員A,B及び協力会員に属する個人、又は正会員個人であること

調査研究に関する基本的な知識や技能があること

日本語および英語の学術論文を読む力があること

大学院における研究の経験（分野は問わない）があればなお望ましい

※統計解析については、別途研究協力者に支援を依頼する予定。

1. ワーキンググループメンバへの費用支給

以下の費用を支給する

* 1. 交通費（調査および会合のための実費）
	2. 調査費用（「受託事業作業費に関する内規」による）

※なお、主任研究者は本務が研究であり、本研究結果が公正なものとなるようにとの倫理的配慮からも調査費用は支給しない。

1. 応募方法

別紙3の申請書に必要事項を記載し、エッセイ「『医療における情報のバリュー・スタディ』に参加することで達成したいことや、業務に反映させたいこと」（500字程度）を添えて中央事務局宛に送付してください。「正会員A,B」および「協力会員」の方は、所属長の氏名および押印が必要ですので郵送で提出してください。正会員個人の方は添付メールでの提出も可能です。

1. 応募締切

締切：2015年5月15日（金）消印有効

1. 選考方法

以下の審査基準に沿い主任研究者および受託事業委員会が応募書類をもとにメンバを理事会に推薦し、理事会が2015年5月末までに決定します。応募者には2015年5月中にその結果を通知します。

審査基準

1. 本受託研究に参加することで達成したいことや、業務に反映させたいことが受託事業の目的に沿っていること。
2. 調査研究能力の高い方、経験のある方、JMLAにかかわる調査研究活動の実績や計画のある方を優先する
3. 申請書送付先及び問合せ先

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1－３　富山房ビル6階

日本医学図書館協会中央事務局

TEL 03-5577-4509 FAX 03-5577-4510

Email: jmlajimu@sirius.ocn.ne.jp

＊お問い合わせは、電子メールをご利用ください。

1. 個人情報の扱い

本応募に際し収集した個人情報は本事業の選考および手続きに用い、ほかの目的では使用いたしません。なお、ワーキンググループメンバの氏名および所属は協会ホームページや総会資料等の報告や記録に掲載して公開します。

別紙2.

2015～2017年度JMLA受託研究「医療における情報のバリュー・スタディ」計画書（WG募集用）

**調査目的**

2013～15年度重点事業目標のA-5「保健・医療関連図書館の『機能評価制度』構築を準備する」の一環として、2015～17年度にかけて医療への情報の価値を調査により明らかにし、エビデンスとして示す。

**体制と研究期間**

WG（主任研究者1名、公募による委員2名程度）＋協力者（参加機関の図書館員＋医療従事者および統計解析支援者）による、3年間（2015～2017年度）の研究（スケジュール案詳細は次ページ）

**協会における位置づけと資金**

受託事業

**調査方法**

米国で2010-11年に実施されたバリュー・スタディ（概要は次々ページ）を踏襲する。

1. Webサーベイ

a.サーベイシステム

国立保健・医療科学院が運営するWebQ(http://www.niph.go.jp/entrance/webq/）または

放送大学が提供するREAS（https://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/topssl）

b.調査対象

図書室部門が存在する医療機関の医療従事者（医師、研修医、専修医、看護師等）

パイロット2機関、本調査3機関、構成員の15%の回答率が目標

※コメディカルを含むか、機関の選考要件、応募多数の場合の対応は要検討

c. 実施期間（予定）

パイロット　2016年2月1日（日）～2月28日（土）

本調査　　　2016年12月1日（木）～2017年1月15日（日）

d.依頼・広報

協会メーリングリスト・ホームページからの参加機関募集

参加機関による対象者へのメール送付

e.謝礼

回答者個人へはなし

機関へは当該機関の速報集計結果を送付

1. インタビュー
2. 調査対象

Webサーベイ参加機関からの紹介、回答者からの申し出　各機関4名程度\*5=20名程度

1. 実施期間（予定）

パイロット　2016年3月1日（日）～15日（日）

本調査　　　2017年1月16日（月）～31日（火）

**報告・発表**

* 参加機関への速報集計、JMLA総会での速報報告（各フェーズ）、
* 『医学図書館』誌への投稿（パイロット）、関係学会での発表（本調査）、
* 海外英文誌への投稿、報告書の作成（パイロット＋本調査）

**スケジュール案**

|  |  |
| --- | --- |
| 日程 | 内容 |
| 2014年04,07月 | 理事会、総務会で懇談 |
| 2014年10月 | 理事会で審議、承認 |
| 2015年2～3月 | 受託事業として提案 |
| 2015年4～8月 | WGメンバ公募WG会合（役割分担・作業計画）文献調査調査設問の翻訳、研究倫理審査JMLA総会でパイロット調査の予告広報パイロット調査参加機関の依頼準備 |
| 2015年9～12月 | パイロット調査参加機関募集ウェブフォーム準備 |
| 2016年1月 | プレテスト、ウェブフォーム手直し |
| 2016年2月 | パイロットサーベイ実施パイロットインタビュー準備理事会へ事業報告・計画・予算案を提出 |
| 2016年3月 | パイロットサーベイ結果分析パイロットインタビュー実施、分析WG会合（分析と報告作成、本調査の準備） |
| 2016年5月 | JMLA総会でパイロット調査結果速報報告＋本調査広報（和歌山）事業報告・計画･予算案承認本調査の参加機関の募集広報開始 |
| 2016年6～8月 | 『医学図書館』誌へパイロット調査結果投稿 |
| 2016年8月 | 本調査の参加機関の募集しめきり |
| 2016年9～11月 | WG会合（パイロット学会発表準備、本調査準備） |
| 2016年12月～2017年1月 | 本調査サーベイ実施本調査インタビュー実施 |
| 2017年2～3月 | 本調査結果分析WG会合（分析と報告作成、発表、執筆計画） |
| 2017年5月 | JMLA総会で本調査結果速報報告日本図書館情報学会春季大会で本調査結果発表（専修大）※総会より日程が早ければスキップ |
| 2017年6～8月 | 執筆、パイロット＋本調査の論文投稿（査読英文誌） |
| 2017年9月～2018年3月 | パイロット＋本調査の報告書作成・印刷 |

* バリュー・スタディ（2011-12実施）

Marshall JG, Sollenberger J, Easterby-Gannett S, Morgan LK, Klem ML, Cavanaugh SK, Oliver KB, Thompson CA, Romanosky N, Hunter S. The value of library and information services in patient care: results of a multisite study.

J Med Libr Assoc. 2013 Jan;101(1):38-46.

・図書館情報サービスの医療アウトカムへの効果測定研究（ロチェスター・スタディの追試）

・予備調査のための図書館員のフォーカス・グループ

・56図書館のサービス対象である北米118病院の医師、研修医、看護師172,463人を対象としたウェブ調査。クリティカル・インシデント法による最新事例について回答

・24人の追跡調査による半構造化インタビュー

結果（16,122有効回答ウェブ調査）：

①情報による医療の変化 78.3％が「あり」

②よい効果 患者への助言（48%）；薬の選択（33%）；治療の選択（31%）

③回避した有害事象 患者の誤解（23%）；追加検査や処置（19%）；誤診（13%）

④情報源の重要性 情報資源（97%）；診断画像（80%）；検査結果（87%）

⑤利用した情報資源 電子ジャーナル（46%）；PubMed（42%）；UpToDate（40％）

⑥利用したアクセスポイント イントラネット（52%）;図書館サイト（50%）；Google（37%）

成果：ロチェスター・スタディの結果の大規模データと複数手法による確認；成功事例の収集というバイアスの可能性

Marshall JG. Measuring the value and impact of health library and information services: past reflections, future possibilities. Health Info Libr J. 2007 Dec;24 Suppl 1:4-17

バリュー・スタディ計画のための文献レビュー

Dunn K, Brewer K, Marshall JG, Sollenberger J. Measuring the value and impact of health sciences libraries: planning an update and replication of the Rochester Study.

J Med Libr Assoc. 2009 Oct;97(4):308-12. バリュー・スタディ計画

Sollenberger JF, Holloway RG Jr.

The evolving role and value of libraries and librarians in health care.

JAMA. 2013 Sep 25;310(12):1231-2. バリュー・スタディ報告

* ロチェスター・スタディ（1990-91実施）

Marshall JG. The impact of the hospital library on clinical decision making:

the Rochester study. Bull Med Assoc. Apr 1992; 80(2): 169–178.

・図書館情報サービスの医療アウトカムへの効果測定研究（1987のシカゴ・スタディ追試）

・ロチェスター地域の15病院所属の医師、研修医2,750人を対象とした質問紙調査

結果（208名有効回答）：

①図書館情報による診療の変化 80.4%が「あり」

②変化の重要性（7件法） 5.4ポイント

③効果の詳細 患者への助言（71.6%）；治療（59.6%）；検査（50.5%）

④回避した有害事象 追加の検査（49.0%）；来院（26.4%）；手術（21.2%）

⑤情報源の重要性（7件法） 図書館（5.4）；同僚との議論（5.2）；診断画像（5.2）

成果：シカゴ・スタディで示された図書館情報サービスの医療アウトカムへの効果の確認と分析手法の確立

別紙3.

　　年　　月　　日

特定非営利活動法人日本医学図書館協会

会長　福 井　次 矢　殿

2015～2017年度JMLA受託研究「医療における情報のバリュー・スタディ」

ワーキンググループメンバ申請書

会員種別 □正会員A　□正会員B　□正会員個人　□協力会員

会員名称

＊「正会員A,B」および「協力会員」の方は、以下に所属長の氏名および押印

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 所属長 役職氏名 |  | 印 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ﾌﾘｶﾞﾅ申請者氏名 |  | 生年月日 |  年 月 日 |
| 所属 |  | 職名 |  |
| 電話 |  | E-mail |  |
| 学歴 |  |
| 職歴 |  |
| 調査研究に関する経験、実績 |  |

※エッセイ「『医療における情報のバリュー調査』に参加することで、達成したいことや、業務に反映させたいこと（500字程度）」を別途提出